



●VOL.53号 2025年1月1日 発行

八潮市長 大山しのぶ

ニュースレター 風

■大山しのぶ事務所
埼玉県八潮市八潮2-18-8
パークアヴェニューK
TEL.048-994-6000
FAX.048-994-6001

■最新情報はホームページで
<http://www.s-oyama.jp/>

■編集・発行／やしおママ倶楽部 〒340-0815 八潮市八潮2-18-8 Tel.048-994-6000

2025年スタート

第5次総合計画の最終年、 第6次計画の準備の年として、 挑戦を続けます。

八潮を取り巻く治水、道路…。 6市1町の連携で大きく進める。

昨年1月4日から、インフラの拠点、交流の拠点、災害対策の拠点である新庁舎での業務が順調に始動しました。皆様のご協力に感謝を申し上げます。

一昨年6月の台風2号は地域に大きな被害をもたらしました。水害対策は地域単独で行うのは難しいため、県や国と一緒に「中川・綾瀬川緊急流域治水プロジェクト」を立ち上げ、各市や町の協力を得て水害対策を進めています。昨年11月20日には、国土交通省に出向き、直接、要望しました。同時に、6市1町で県東南部の道路網の整備と道路を活かしたまちづくりのための要望もしてきました。

東埼玉道路の起点に位置する八潮市は、北部に拠点としての役割が期待されています。外環のPA、そこに続くスマートインターの整備も、国の許可を得て、動き出しているところです。渋滞対策として新交通システムBRT等を導入し、東埼玉道路の高規格道路の下に、専用道路を整備し、八潮からレイクタウン、春日部などへ向かう計画で、これにより渋滞対策とパーク&ライドが同時可能になります。マイカーで八潮まで行き、駐車場に停め、そこから新交通に乗り換えて行くことで、レイクタウンの渋滞

も減ります。レイクタウンで買い物をしたり遊んだ人が八潮に戻ってきて、八潮の(仮称)「道の駅」でひとときを入れて、それからマイカーで外環や高速に乗って家路につく、このような流れが出来れば新たな賑わいも生まれます。産業と商業の事業所を誘致し、併せて災害などが起きた場合には、高速道路を使って八潮のPAや「道の駅」に物資を入れて、拠点となるように防災的機能を持たせた「道の駅」にすることも考えています。さらに国が本来、考えていた中央環状線・外環道・圏央道など3環状線5放射道とつながることで八潮の利便性と価値が高まります。

県内3位の事業所数…。 産業政策にも積極展開を

また、県内3位の製造業事業所数を誇る八潮には産業政策も重要です。八潮独自の視点を加え、商工会や金融機関などと協力しながら進めて行くとともに、八潮のブランド認定を充実し、『八潮には素晴らしい商品・企業がある』と内外に発信、地元産業の活性化を強力に行ってまいります。

八潮はいま、新しい農地計画を策定しています。都市農業を進める中で、若い世代だけではなく、しっかりと技術を持った生産者もたくさんいるので、お互いの技術を発揮できる生産の場をつくっていく。農地は、まちの潤いや防災のための空間としての機能も持っています。そのような観点からの整備も進めてまいります。

少子化対策として医療費の18歳まで無料化や、こども家庭庁の発足と同時に、八潮市も『こどもまんなか宣言』をして、子どもに関する計画をしっかりとついています。いままでは子育て世代だけであったものを、地域で子どもたちを見守っていこうとい



う全体的な計画をつくって、推進しています。

一方で、お年寄りの方々には包括支援センターを整備し、居場所づくり、健康づくり、交流の場等を整備して、生きがいを持って生活ができるような施策を進めていきます。

私は八潮のまちづくりは「リトル東京」を追い求める必要はないと思っています。豊かな自然があり、空間があり、利便性が高い。子どもたちがのびのび遊んで、勉強ができる。年配になっても、みんなで一緒になって『安心して暮らしていける』と実感できる、まちにしていきたいと思っています。価値観が多様化する中でも『八潮で暮らしてよかった』というのは共通のコンセプトであり、揺らぐことの無い私の信念です。

「健康」な都市を目指し、 社会の分断をつなぐまちづくり

2025年は第5次総合計画の最終年であり、同時に第6次計画をつくる準備の年にあたります。第5次計画はコロナ禍のため、事業計画の遅れとともに人々が直接コミュニケーションが取れない状況から、社会の分断が生じました。

私は日頃からまちづくりに「健康」の重要性を訴えてきました。私の考える「健康」は、個人の健康対策だけではなく人と人とのコミュニケーションがきちんと保たれる地域社会の「健康」が大切です。これらを自らの次のテーマにしながら、市政を進めていければと考えています。第6次総合計画の期間中には八潮市の人口は10万人を確実に超えるでしょう。『10万を超える市民が、健康で、安心・安全に過ごせるまち』そして『社会の分断をなくす』これらを目指し、「住みやすさナンバー1のまち八潮」の実現に全力を尽くしていきます。

八潮市長 大山しのぶ

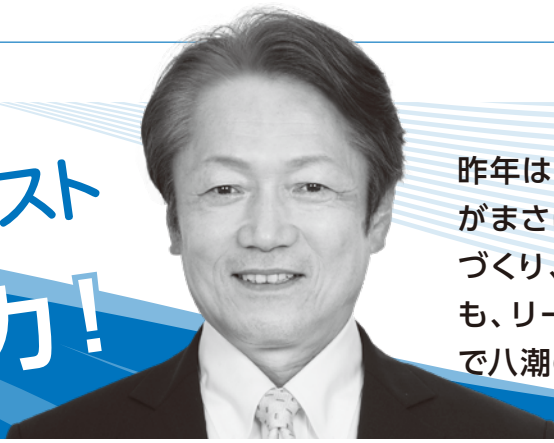


国土交通省の事務次官に6市1町で要望(2024年11月20日)

大山 忍(おおやま・しのぶ)プロフィール

●昭和32年6月5日 八潮市八潮生まれ(67歳) ●八潮町立第三小学校(現・八潮市立八幡小学校)～草加市立高砂小、私立早稲田中学・早稲田高校を経て、成蹊大学工学部卒 ●大学卒業後、機械メーカーでサラリーマン～国会議員秘書経験12年 ●平成9年八潮に戻り、家業の農業を継ぐ ●平成12年、埼玉県議会議員に初当選(4期連続当選) ●平成25年9月8日の八潮市長選挙に立候補。1万9717票をいただき、八潮市長に初当選 ●平成29年9月3日、無投票で2期目当選 ●令和3年9月5日、1万9332票をいただき、3期目当選

2024年 ニュース ダイジェスト 大山市政、 さらなる充実に全力！



昨年は1月に新庁舎での業務が開始し、大山しのぶの構想がまさに本格始動した年でした。また、交通網整備やまちづくり、治水など、周辺の5市1町と連携が必要な分野でも、リーダーシップを発揮し、県南東部という大きな視点で八潮の未来のための活動を展開してきました。

新庁舎 本格始動！ 「書かない窓口」「フリーWi-Fi」 「LINE情報発信」など 市民サービス充実に取り組む

令和6年1月4日に八潮市新庁舎が開庁しました。市全体の都市機能が集約し、都市活動の中心となるシビックセンターを形成するため、新庁舎は、八潮メセナや八潮中央公園との連携を図ることにより、人々が集い、つながり、賑わいを創出する「輪」がテーマです。

ただ庁舎を新しくするだけでサービスが改善されず職員の働き方が変わらないのでは意味がありません。まずは証明書取得等の手続きが簡略化される「書かない窓口」を開始し、フリーWi-Fiを導入したところです。庁内的にも会議資料のペーパーレス化、ノーコードツール導入など効率的な行政運営を進めております。市民の方へもいち早く情報をお届けできるようLINEによる情報発信を始めております。

更にシティーセールスの一貫として、令和6年7月から新庁舎の特徴の一つである、サークル広場を市民の皆様にお貸しできるようにしました。8月には早速ドラマ撮影で活用いただくなど、賑わいを見せております。引き続き、まちに開かれた賑わいのあふれる庁舎を目指していきます。



市民祭り



健康ラジオ体操

緊急流域治水 プロジェクトの策定 流域の6市1町での連携を推進、 中川、綾瀬川への対策として、 排水ポンプ施設などを積極整備

令和5年6月大雨(台風第2号)により被災された皆様に改めてお見舞い申し上げます。当時甚大な浸水被害が発生した中川・綾瀬川流域の埼玉県下流部関係市町(春日部市、草加市、越谷市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町)において、早期に内水被害の軽減を図るため、国・埼玉県・関係市町が連携し「中川・綾瀬川緊急流域治水プロジェクト」をとりまとめました。

八潮市では、「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」として、内水氾濫に対応するための排水ポンプ施設の整備、雨水管きょ施設等の整備を行います。「被害対象を減少させるための対策」として、特定都市河川浸水被害対策法に係る検討・調整、立地適正化計画の作成に向けた検討等を実施します。また、「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」として、小型浸水センサの設置により浸水箇所を早期に把握し、早期復旧・復興に努めてまいります。

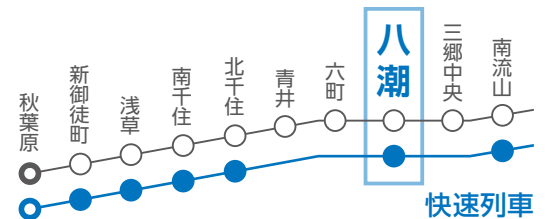


浮塚排水機場視察

TX八潮駅に 快速列車が停車 平日43本、休日63本が停車 朝には八潮始発も2本増発。 もっと便利に快適に

市では、朝の通勤時間帯の混雑緩和など、つくばエクスプレス八潮駅の利便性向上などについて、首都圏新都市鉄道株式会社に対し、継続して要望活動を行っております。令和6年3月のダイヤ改正に伴い、ついに八潮駅に快速列車が平日43本、休日63本停車するようになりました。また、朝のラッシュ時間帯に八潮駅始発が2本増発されました。これにより皆様にとっても更に便利に、快適に御利用いただけるようになったことは喜ばしいことだと思います。

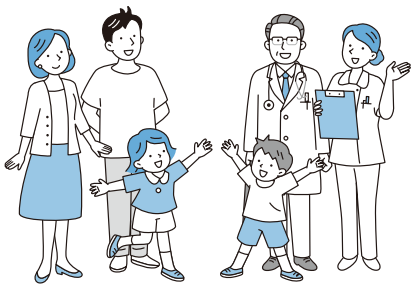
2025年はつくばエクスプレスが開業して20周年を迎える節目の年となります。TXアベニュー八潮も全店改装され、八潮駅が益々の賑わいを見せることに熱い期待を寄せております。駅は街の顔とも言われる重要な地域であります。今後も首都圏新都市鉄道株式会社や市民の皆様と共に精一杯盛り上げてまいります。



こども医療費の 対象年齢拡大 入院・通院の医療費助成、 令和6年4月から 15歳から18歳に対象拡大

市では、安心してこどもを産み育てる環境整備の一環として、こどもの健やかな成長の支援と、子育て家庭の経済的負担の軽減を目的に、お子さんの医療費を助成しています。

令和6年4月からこのこども医療費の対象年齢を入院、通院ともに15歳から18歳まで拡大しました。市内に住むすべての人が安心して住み続けられるような施策を引き続き進めてまいります。



民間保育施設勤務の 保育士の処遇改善 八潮市の独自事業として 経験年数に応じて 最大月5万円を補助

民間保育施設に勤務する保育士を対象に実施する市独自の処遇改善事業について、従来の月額2,000円相当から経験年数に応じて最大で月額50,000円に増額し、市内保育施設の保育士確保を支援します。保育士処遇改善事業と合わせて、奨学金返済支援事業、人材育成事業を新たに実施することで、相乗的効果を期待しています。

このような取組を通じて、安定した保育体制の確保・保育の質の向上を目指し、待機児童の解消に向けて全力で取り組んでまいります。



ハッピーこまちゃん健康 マイレージのリニューアル 「コバトンALKOOマイレージ」 新たに運用開始！ ポイント事業もスタート

これまで皆様の健康づくりのための事業として「ハッピーこまちゃん健康マイレージ」を運用しておりましたが、令和6年3月の運用終了に伴い、さらに便利で使いやすく、機能を充実させるため、リニューアルを行い、新たに「コバトンALKOOマイレージ」として運用を開始しました。併せて「ハッピーこまちゃん健康ポイント」事業を開始します。ALKOOマイレージに登録した方が毎日のウォーキングや検(健)診の受診、事業への参加でこまちゃんポイントがたまり、市の特産品などが当たる抽選に参加することができる市の独自事業です。

このような取り組みを進め、健康への意識を高めて、いつまでも自分らしく生きられる「住みやすさナンバー1のまち八潮」の実現に向けて全力で取り組んでまいります。



「©八潮市」

埼玉県マスコット「コバトン」

大山しのぶ
事務所

埼玉県八潮市八潮2-18-8 パークアヴェニューK
TEL.048-994-6000 FAX.048-994-6001

最新情報は
WEBで！

ホーム
ページ
公式
ブログ

<http://www.s-oyama.jp/>
<http://ameblo.jp/oyama-shinobu/>